

# 混合型コンセッション導入の背景・目的



滑走路・駐車場は県、ターミナルビルは会社（三セク）と、運営主体が異なっており、空港全体として一体的・機動的な運営を行う必要

## 混合型コンセッション方式(PFI)の導入

空港全体の運営を民間事業者が一体的に行い、混合型の強みを活かした官民連携により、空港の利用促進や魅力向上による空港・地域全体の活性化を図る

# 民間事業者の選定

公募型プロポーザル方式により民間事業者を選定

民間事業者：JPiX・OCコンソーシアム

株式会社日本共創プラットフォームを代表企業とし、  
ほか1社で構成

混合型の先行事例である南紀白浜空港の運営実績

事業期間：令和8年4月1日～令和18年3月31日

（10年間。延長含め最長25年間）

# 提案のポイント

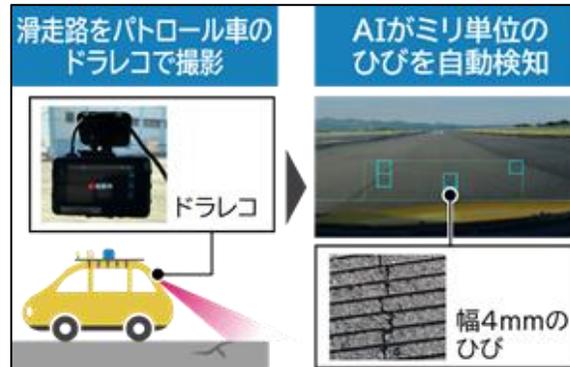
- 1 混合型コンセッション方式による空港運営の実績を踏まえた、**高いオペレーション能力による安全安心な空港運営**
- 2 **空港から飛び出して地域活性化に取り組む、新しいアプローチによる空港運営**
- 3 **現場主義・地元密着による責任を持った空港運営**

# 提案のポイント(オペレーション) 富山県

- 他空港の運営経験による突発事象(気象や機材故障、ハイジャック等)への迅速な対応、訓練の積み重ね
- 人口減少時代・働き手不足を見据えた**空港DX**



草刈りロボット



「ドラレコ×AI」による滑走路点検



AIを活用した多言語観光案内

- 空港管理事務所と空港ビル会社の**ワンオフィス化**  
(コミュニケーションの円滑化による迅速な意思決定)

# 提案のポイント(新しいアプローチ)

- 単なる空港運営にとどまらず、「地域に飛び出し」、「地域を磨き」、「地域に人が訪れる」**需要創出に力点**
- 空港や地域課題を実証フィールドとして提供し、興味を持つ**企業の投資を呼び込み**
- 首都圏企業やビジネスパーソン向けの実践型越境学習プログラムによる**関係人口の創出**(企業人材の学び、新たなビジネスの種)
- 空港運営会社自らが第二種旅行業登録を受け、旅行会社として**魅力的な旅行商品の開発による誘客・送客**

# 提案のポイント(現場主義・地元密着)

- 2～3年毎のスタッフの人事異動ではなく、**長期間にわたるコミット**で、**おもてなしの精神による空港運営**



空港運営会社トップ  
自らがお出迎え

- 若者の県外流出を防ぎ、**就職先として選ばれる空港運営**  
(優秀な人材の確保、人材への積極的な投資)
- 県庁内の関係部署を横断的に連携させる体制を構築し、**官民連携の相乗効果を創出**

# 富山空港混合型コンセッション

- コロナ禍後、初めての空港コンセッション導入
- 県・三セクの運営体制から、県・民間事業者がパートナーとなり、互いの相乗効果により、富山空港・地域の発展を目指す体制へ

令和8年4月 コンセッション事業開始

担当：航空政策課